

N A R U T O C I T Y

鳴門市観光振興計画

渦巻く市民力が創る
観光・交流都市「なると」

概要版



平成19年3月

徳島県 鳴門市

計画策定の目的と計画の期間

鳴門市は、渦潮をはじめ、四国八十八ヶ所の一番・二番札所や大麻比古神社、大谷焼、大塚国際美術館、映画「バルトの楽園」や「阿波DANCE」のロケ地としての魅力など、豊富な観光資源を有しています。一方、これまでの鳴門市観光は資源間のつながりが弱く、観光客の滞在時間が短いなどの問題点も指摘されており、また、高速交通体系の整備などに伴い各地の観光地との競合も一段と激しいものとなってきています。

全国的に少子高齢化時代が到来し、定着人口の増加が見込めない中で、地域ににぎわいを創出するためには、観光を通じて交流人口の増加をうながすことが市の発展を図るうえで重要なテーマとなっています。

このような背景を踏まえ、恵まれた観光資源のポテン

シャル（潜在能力）を十分に発揮させるため、**これからの鳴門市にふさわしい個性に富んだ観光振興の方向性を示すことを目的**として、「鳴門市観光振興計画」を策定しました。

この計画は、第五次鳴門市総合計画のもと、観光分野における構想、基本的な方向性を示すとともに、市民、観光関連事業者、市が協働して観光・交流を発展させていくための行動指針となるべきものです。このため、この計画の期間は、総合計画後期（平成20年度～23年度）の終了期間と合わせ、**平成19年度～23年度までの5年間**とします。また、その後にもつながるように長期的な視点も意識した内容を盛り込むこととします。

1. 鳴門市観光の現状と課題

鳴門市観光の課題とポテンシャルは以下のように整理することができます。

鳴門市観光の課題

- ① 観光資源の再発見（鳴門の観光資源を見つめ直し、魅力をいかに発掘、評価するか）
- ② 情報発信（鳴門観光の魅力をいかに伝えるか）
- ③ 市民協働（市民がいかに地域に誇りを持ち、資源を守り育てながら継続して観光に関わっていくか）
- ④ ネットワーク（市内の観光資源をいかにつなぐか、広域的にいかにつなぐか）

鳴門市観光のポテンシャル

- ① 観光資源の魅力（第一級の文化財・芸術作品、歴史資源、おいしい食べ物、風景など）
- ② 情報発信力（渦潮のネームバリューなど）
- ③ 市民力（お接待の心、市民の底力、さまざまな市民活動など）
- ④ ネットワーク力（四国の玄関口としての位置、自動車交通の利便性、四国・関西等とのネットワーク、国際交流の取組みなど）

この鳴門市観光の課題とポテンシャルから、以下のような方向性が見えてきます。

鳴門市観光の方向性

観光資源

- ・鳴門市の自然、歴史・文化、新鮮な食材などの豊富な観光資源を、これまで以上に観光客にアピール。
- ・都会の人にとって非日常を感じさせる鳴門の日常的生活・風景（食文化、さつまいも畑、古い町並みなど）を観光資源として活用。

情報発信

- ・「鳴門といえば渦潮」と言われるくらいにイメージが固定化されているため、その他の観光資源を含めて鳴門のすばらしさを伝えるための情報発信を工夫。

市民力

- ・「お接待」に見られるような来訪者を温かく迎え入れる精神風土、映画撮影の際のボランティアによるサポート活動に見られる地域の団結力などが観光振興に活かされるような組織づくり、気運の醸成。

ネットワーク力

- ・四国各地や瀬戸内の周辺各都市、関西などとの広域連携により観光振興を推進。
- ・長年にわたるドイツとの交流、中国との友好関係など、国際交流の実績を観光振興に活用。

2. 観光振興の基本理念と基本方向

● 鳴門市観光振興の基本理念

今後の鳴門市観光は、知名度の高い渦潮を核としながら市内にある魅力的な資源を活かし、これらをつなぐことにより、本来鳴門市観光が持っている多様なポテンシャルを最大限に発揮させることが重要となってきます。

その際に、鳴門は常に人やもの、情報・文化などを受け入れ、新たなものを生み出す交流のまちとして発展してきたという歴史性を踏まえて、ただ単に外からの観光客を呼び込むのではなく、交流を通じて、訪れる人にとって魅力的であり、鳴門に住む人にとっても地域に自信と

誇りを持つことができる観光・交流のまちづくりをめざしていく必要があります。そのためには、観光関連事業者や行政だけではなく、市民がいろいろな場面で観光・交流に関わり、市民の思いや活動がまちづくりに活かされて行くことが求められます。

こうした考え方をもとに、市民ぐるみで取り組む活気あふれる状態を、鳴門の象徴である渦潮の力強さになぞらえて、観光振興の基本理念を以下のとおり表現します。

渦巻く市民力が創る 観光・交流都市『なると』

● 観光振興の基本的考え方

テーマ1：鳴門にしかない“本物”の魅力を活かす

渦潮やウチノ海をはじめとする美しい海などの自然景観、ベートーヴェン第九交響曲の日本初演の地、鳴門板野古墳群など太古から連なる悠久の歴史文化、阿波踊りに代表される世代を超え受け継がれてきた生活文化、新鮮で豊富な食材など、それぞれの資源の質の高さを“本物”のトップブランドとして育成、アピールし、訪れる人に癒しと感動を与える観光地づくりをめざします。

テーマ2：「新たな見せ方・結びつけ」の工夫を行う

生活路線である小鳴門海峡の渡船や、さつまいも畑の緑、ハスの花咲くレンコン畑といったのどかな田園風景など、鳴門の日常を、都会の人々の自然回帰や原風景へのあこがれを満たす観光資源として新たに演出し、鳴門への対流（滞留）拡大をめざします。また、大谷焼の里や西部地域にある寺社、文化財などの歴史文化資源をストーリー性を持たせて結びつけるなど、これまでとは違った新たな見せ方、魅力を創出します。

テーマ3：地域力・市民力で観光・交流を盛り上げる

これからの鳴門市観光は、市民一人ひとりが鳴門の良さを改めて感じ、誇りを持つようになることで、地域ごとの特色を活かした活動に積極的に参加し、訪れた人とふれあいながら鳴門の魅力を伝え、市全体で観光・交流を盛り上げていくまちづくりをめざします。

テーマ4：鳴門を売り出す手段を工夫する（情報発信・受け入れ態勢の整備）

物語性のある観光地の紹介など、「本物」の観光資源に関する情報発信力の向上や工夫を行うとともに、地元住民からの穴場情報、専門性の高い情報など一歩踏み込み、「こだわり」を持った人々の心を動かす情報発信拠点をめざします。

また、市民による案内や交通アクセスの向上、ホテル・飲食店等での接客力の向上など、訪問者に快適な環境を提供できる受け入れ側の機能を充実させます。

資源と人
をつなぐ

地域と地域
をつなぐ

渦巻く
市民力が創る
観光・交流都市
『なると』

人と人
をつなぐ

地域と人
をつなぐ

「つなぐ」

3. 観光振興に向けた施策

● 鳴門市の観光振興を進めるうえでのキーワード

鳴門は、古来より、人、もの、文化などが行き来する交流拠点として、異なる人や地域の価値観をつなぎ、融合し、新たな価値を生み出し発展してきたまちです。このため、基本的考え方のもと今後の鳴門市の観光振興を進めるうえでは、鳴門市の歴史的特性を踏まえて、「つなぐ」をキーワードとして、**資源と人**、**人と人**、**地域と人**、**地域と地域**をつないでいくことが重要です。

● 観光振興に向けた施策の体系

鳴門市の観光振興に向けて、4本の柱を立てて施策を講じます。なお、施策のうち、★は**重点施策**です。

1 地域で取り組む鳴門らしさの発見と育成～鳴門のブランドづくり～

「資源と人をつなぐ」というキーワードを踏まえて、「本物」の鳴門の観光資源の良さを再発見するため、地域みんなで既存資源の新たな見せ方・結び付け方を行うとともに、埋もれている資源にも光を当て、既存資源との結び付けを行うことにより、訪れる人も住む人も惹きつける“100年先も輝き続ける”鳴門ブランドを育みます。

① 鳴門の「本物」に出会える機会づくり

訪れる人だけではなく市民を含めて、鳴門ならではの「本物」の歴史・文化・伝統などの魅力を学ぶ機会を増やすとともに、訪れた人が農業・漁業体験や、郷土の食材を活かした料理等を楽しむきっかけを増やします。

・歴史・文化・伝統のクローズアップ★

歴史文化資源や伝統産業等、鳴門の「本物」の資源を再認識し、次代に継承しながら、訪れる人にも広く伝える気運の盛り上げや情報発信、地域案内等に市民ぐるみで取り組みます。

・体験交流型観光への取り組み

「阿波おどり」、「第九」、大谷焼、農水産物の収穫など既存の体験交流の取り組みの充実や新メニューの研究・開発、受け入れ態勢の整備をめざします。

・郷土の食材を活かした料理等の普及・開発★

鳴門の新鮮な食材を活用した料理やご当地グルメの普及、新たな料理の開発と普及を図ります。

② 「なると」の日常的風景に出会う機会づくり

のどかなさつまいも畑、渡船、夕陽が沈んでゆく海、わかめの湯通しなどは、都会で忙しく生活する人々にとっては「非日常」であり、こうした“普段着”の鳴門の風景を新たな観光素材として活用します。

・鳴門の魅力を肌で感じるモデルルートづくり

「鳴門の日常は都会の非日常」を合い言葉に、四季折々のテーマを設定し、まち歩きで普段着の鳴門の魅力を体感できるルートづくりに取り組みます。

・市民参加の地域別探索マップづくり★

市民参加により、地域の魅力の再認識と世代間交流を図りながら、手づくりの地域別探索マップづくりに取り組みます。

・鳴門の新たな見せ方の検討

春夏秋冬、朝昼夜、山と海など、季節や地域、テーマごとに年間を通じて鳴門観光の魅力进行PRするため、観光資源の新たな結び付け方や見せ方について検討します。

2 鳴門の誇りを守り育てる人づくりと基盤整備～受け入れ態勢の整備～

「人と人をつなぐ」というキーワードにより、訪れる人を市民一人ひとりが迎え入れ、案内することができるようにするため、地域の魅力や良さを知り、歴史文化などを守り育てながら、地域自慢ができる人づくりを行います。また、訪れる人が市内をスムーズに移動することができ、快適で美しい鳴門を満喫できるように交通や環境の基盤整備を進めます。

① 鳴門の底力を魅せる人づくり

～市民ぐるみの観光推進～

訪れた人が市民と出会い、交流し、一人でも多くの鳴門ファンを生み出していくことができるように、それぞれの立場で観光客をもてなす「市民総観光案内人」の鳴門づくりをめざし、「もてなしの心」の継承と観光振興の核となる人材の発掘・育成に努めます。

・鳴門観光を市民が学ぶ機会づくり

市民を対象に鳴門観光に関する学習機会を設け、観光の視点から鳴門の良さを再認識し、市民全体で支え盛り上げる観光交流都市づくりの意識醸成を図ります。

・「鳴門の達人」の登録・活用

鳴門の歴史文化、自然環境、地場産業、郷土料理、特産品などを語ることができる人材を「鳴門の達人」として登録し、鳴門の魅力の伝達・継承を支えるネットワークづくりをめざします。

・観光ボランティアガイドの育成★

市民の中から歴史、文化、伝統、自然環境などの紹介・案内ができる「観光ボランティアガイド」を育成し、観光案内の要望に対応できる体制づくりをめざします。

・観光関連事業者のスキルアップ

観光関連事業者など観光に携わる人々を対象に、接客能力や観光情報提供能力の向上に資する取り組みを推進し、「おもてなしマインド」の向上を図ります。

② 交通・その他の受け入れ基盤整備

あらゆる交通手段で訪れる人にとって、鳴門が快適な観光交流都市であるように、交通拠点での情報提供機能の充実を図るとともに、市内交通の利便性向上や、受け入れ基盤の整備を推進します。

・ふるーあ鳴門の機能充実とハブターミナル化の推進★

高速鳴門バス停留所及び周辺エリア（ふるーあ鳴門）において、観光情報案内サービス等の機能充実や環境整備、高速バス交通の拠点づくり（ハブターミナル化）を進めます。

・鳴門公園～大麻地域の交通手段の確保

鳴門公園と大麻地域をつなぐ交通の利便性を向上させるため、効率的な移動手段の確保について検討を行います。

・主要交通拠点からの二次交通の向上策検討

高速バス停留所や徳島空港、JRの駅などの主要交通拠点から市内の観光地への移動をスムーズにするための検討を行います。

・レンタサイクルの整備

レンタサイクルを市内主要施設等に整備し、ゆっくりと時間をかけて鳴門を楽しむ機会を拡充します。

・環境・景観に優しい観光のまちづくり

地域で行われている清掃活動等を推奨し、ポイ捨て禁止やゴミの持ち帰りなどの環境美化、景観保全活動を進めるとともに、花による観光地づくりをめざします。

③ 観光推進体制の組織強化・見直し

市民・観光関連事業者・行政が三位一体となってこれからの鳴門の観光・交流によるまちづくりを進めていくため、それぞれが役割分担のうえで連携し、市全体としての観光推進体制づくりを図ります。

・観光関連事業者と市民、行政を結ぶ会の設置検討

市民、観光関連事業者、行政の三者が集う場を設け、鳴門市の観光を三位一体で推進していく気運の醸成とコミュニケーション強化を図ります。

・観光協会の組織力の強化★

積極的かつ独創的な観光事業に取り組むため、専属職員の配置や法人化等を含めた組織体制を検討し、観光協会の組織力強化を図ります。

・観光施設や観光関連事業者間の連携強化

観光施設や観光関連事業者間の連携を強化し、情報の共有やイベントの共催、セット割引等、鳴門市全体として、周遊性や集客力の向上につながる取り組みについて検討します。

3 地域ぐるみでの鳴門情報の受発信強化

「地域と人をつなぐ」というキーワードをもとに、市民が知っている地域密着の情報を収集するとともに、既存の情報との融合や見せ方の工夫、タイムリーな発信などに心がけ、受信者が「鳴門にきたい」と思わせるような情報発信を地域ぐるみで行います。

① 観光情報提供の見直し・充実

「鳴門＝渦潮」という固定イメージから発展した観光地としての新たな魅力を打ち出します。海外までを視野に入れ、市民、民間、行政などが地域ぐるみで積極的に情報発信し、感動を生む観光地づくりを進めます。

・ホームページの充実

鳴門市が運営する観光情報サイト「鳴門NAVI」と鳴門市観光協会が運営するホームページについて、利便性の高いシステムへの転換を図ります。また、さまざまな利用者の要望に対応できるよう内容の充実を図るとともに、市民参画型の情報発信の仕組みづくりに取り組みます。

・観光パンフレットの充実

従来の「見る」「食べる」「遊ぶ」を中心とした内容に「癒す」「学ぶ」の視点を加え、鳴門の魅力をふんだんに取り入れた観光パンフレットを作成し、人々を惹きつけ魅せる情報提供の充実を力を入れていきます。

・観光情報センターの案内サービスの充実

「ふるーあ鳴門」の中核施設である観光情報センターを、四国の水先案内人の拠点として位置づけ、観光客ひとりひとりにもてなしの心を持って観光案内サービスの充実に努めます。近隣地域の観光情報提供や外国語での案内など、利用者の視点にたったサービスの提供に努めます。

② PR活動の充実・強化

鳴門市内での滞在時間の長期化につながるようなプロモーション活動の展開に努めるとともに、ターゲットとする地域や年齢層に合った情報提供、情報を受けとる人の心に届く情報発信の仕方について工夫します。

・効果的なPR活動の推進

高速バス路線や航空路線でつながっている地域において重点的なPRを行うとともに、宿泊観光者の増加を目的として、鳴門が宿泊地となる発地エリアでのPRや、近隣府県での大規模イベントを見据えた誘客宣伝活動など、効果的かつ効果的な誘客キャンペーンを展開します。

・マスメディアの有効活用

シニア層や団塊の世代をターゲットとして、テレビや生活雑誌で鳴門情報が取り上げられるように積極的なプロモーション活動を推進します。また、若者・ファミリー層へは、タウン誌やフリーペーパー等へ売り込みを行うなど、全国各地への鳴門情報発信をめざしてマスメディアを有効活用します。

・全国徳島県人会のネットワークを活用したPR

全国徳島県人会連合会のネットワークを活用し、全国各地で活躍する徳島県人の人脈を活かしたキャンペーン展開を行います。

・「鳴門へおいで」共通ロゴの開発と普及★

地域ぐるみで観光振興の気運を盛り上げるため、「鳴門へおいで」をイメージさせる共通ロゴやキャッチコピーを開発し、市民、各種団体、企業等に活用を呼びかけ、全市的キャンペーンを展開するなど普及に努めます。

4 鳴門観光交流のさらなる発展・可能性の追求

「地域と地域をつなぐ」というキーワードのもと、四国の玄関口の交流拠点都市として四国各地や瀬戸内、近畿・中部圏などとの広域連携を進めるとともに、ドイツや中国との交流実績を活かして世界に開かれた国際観光交流の推進を図ります。また、映画等の映像撮影への協力、プロスポーツの集客力の活用、コンベンション等の誘致など、鳴門市への集客、人と人との交流創出に効果的な方策を支援、実施していきます。

① 広域観光交流の推進

県内や隣接する他県の市町村、歴史的につながりの深い四国各地及び瀬戸内海や紀淡海峡沿岸地域などとの観光関連分野での連携を深めるなかで、広域循環型観光ルート開発を行い、国内外の観光客に魅力のある観光メニューを提供します。

② 国際観光交流の推進

ドイツ・リュネブルク市や中国・青島市をはじめ、欧米及びアジア諸国からの外国人観光客の誘致を促進するため、国際交流関係団体等の参画のもと、地域ぐるみで各種サービスの質の向上や受け入れ態勢の整備をめざします。

③ にぎわい・交流の創出に向けた取り組みの充実

地域ににぎわいと交流を創出するため、映画ロケ受け入れやプロスポーツ支援、コンベンション等の誘致に向けた取り組みを進めます。

・瀬戸内四都市広域観光推進協議会の連携強化

神戸市、倉敷市、琴平町とのさらなる連携強化を図り、広域循環型観光ルートの開発と商品化、マスメディアを活用したPRや共同イベントの実施など誘致事業の充実を図ります。

・ASAトライアングル交流圏推進協議会の連携強化

ASA(阿波、讃岐、淡路)トライアングル交流圏推進協議会を構成している東かがわ市、南あわじ市、鳴門市の3地域が観光関連分野での連携強化を図り、一体的な地域の観光振興をめざします。

・四国内連携強化

「四国はひとつ」の考えのもと、四国観光立県推進協議会等が行うPR事業等に積極的に協力参加するとともに、四国八十八ヶ所て結ばれた市町村等との連携強化を図ります。

・近畿圏・中部圏との連携強化

PR活動や情報提供等に努め、近畿圏との連携強化ならびに中部エリアとのネットワーク拡充を図ります。

・世界の人に優しい鳴門市づくり★

外国人にとって安全で安心な観光都市づくりを進めるため、言語サービスの拡充やもてなしサービスの向上などにより、旅における外国人の不安・不満の解消に努めます。

・体験交流型観光への外国人の参加促進

「阿波おどり」を活かして市民も外国人も参画しやすい体験交流型の国際観光交流を推進するとともに、大谷焼の体験についても国際的なPRを図り、受け入れ環境の整備について検討します。

・訪日教育旅行の誘致促進

リュネブルク市や青島市を中心に海外都市からの修学旅行や研修旅行先として鳴門を積極的にPRし、誘致を進めます。

・外国人モニターツアーの実施検討

外国人旅行者に魅力的で安全・安心な鳴門の旅行環境を提供できるように、在日外国人を対象とした鳴門観光モニターツアーの実施を検討します。

・ロケ誘致・支援及びロケ地観光の推進★

鳴門のPRやロケへの参加・協力を通じて地域に対する誇りの醸成に効果が大きいロケの誘致・支援及びロケ地観光(案内板・マップづくり、関連商品開発・販売等)を推進します。

・プロスポーツとの連携によるにぎわいづくり

Jリーグチーム徳島ヴォルティス等の観客動員増を図るための広報活動支援やホームゲームイベントの共同開催などをチーム関係者との連携により実施します。

・コンベンション等の誘致促進

会議や学会、スポーツ大会などのコンベンションの誘致を図るとともに、県等が推進するスポーツ合宿の誘致に連携して取り組むほか、広域連携を結ぶ各地でのコンベンションに付随する小旅行先に鳴門市が取り上げられるよう働きかけます。

鳴門市観光振興計画の流れ

観光の現状と課題

鳴門市観光の課題

- ① 観光資源の再発見（鳴門の観光資源を見つめ直し、魅力をいかに発掘、評価するか）
- ② 情報発信（鳴門観光の魅力をいかに伝えるか）
- ③ 市民協働（市民がいかに地域に誇りを持ち、資源を守り育てながら継続して観光に関わっていくか）
- ④ ネットワーク（市内の観光資源をいかにつなぐか、広域的にいかにつなぐか）

鳴門市観光のポテンシャル

- ① 観光資源の魅力（第一級の文化財・芸術作品、歴史資源、おいしい食べ物、風景など）
- ② 情報発信力（渦潮のネームバリューなど）
- ③ 市民力（お接待の心、市民の底力、さまざまな市民活動など）
- ④ ネットワーク力（四国の玄関口としての位置、自動車交通の利便性、四国・関西等とのネットワーク、国際交流の取組みなど）

観光振興の基本理念と基本方向

観光振興の基本理念：渦巻く市民力が創る 観光・交流都市「なると」

観光振興の基本的考え方

- ① 鳴門にしかない“本物”の魅力を活かす
- ② 「新たな見せ方・結び付け」の工夫を行う
- ③ 地域力・市民力で観光・交流を盛り上げる
- ④ 鳴門を売り出す手段を工夫する（情報発信・受け入れ態勢の整備）

キーワード：つなぐ

- ◆ 資源と人をつなぐ
- ◆ 地域と人をつなぐ
- ◆ 人と人をつなぐ
- ◆ 地域と地域をつなぐ

観光振興の施策

施策の体系（4つの柱）

- 地域で取り組む鳴門らしさの発見と育成～鳴門のブランドづくり～（資源と人をつなぐ）
- 鳴門の誇りを守り育てる人づくりと基盤整備～受け入れ態勢の整備～（人と人をつなぐ）
- 地域ぐるみでの鳴門情報の受発信強化（地域と人をつなぐ）
- 鳴門観光交流のさらなる発展・可能性の追求（地域と地域をつなぐ）

重点施策

- 歴史・文化・伝統のクローズアップ
- 郷土の食材を活かした料理等の普及・開発
- 市民参加の地域別探索マップづくり
- 観光ボランティアガイドの育成
- ふるーあ鳴門の機能充実とハブターミナル化の推進
- 観光協会の組織力強化
- 「鳴門へおいで」共通ロゴの開発と普及
- 世界の人に優しい鳴門市づくり
- ロケ誘致・支援及びロケ地観光の推進

鳴門市観光振興計画

渦巻く市民力が創る 観光・交流都市「なると」

概要版

- ・発行/平成19年3月・編集/徳島県鳴門市
- ・〒772-8501 徳島県鳴門市撫養町南浜字東浜170
- ・TEL (088) 684-1157・FAX (088) 684-1339
- ・e-mail : syokokanko@city.naruto.lg.jp